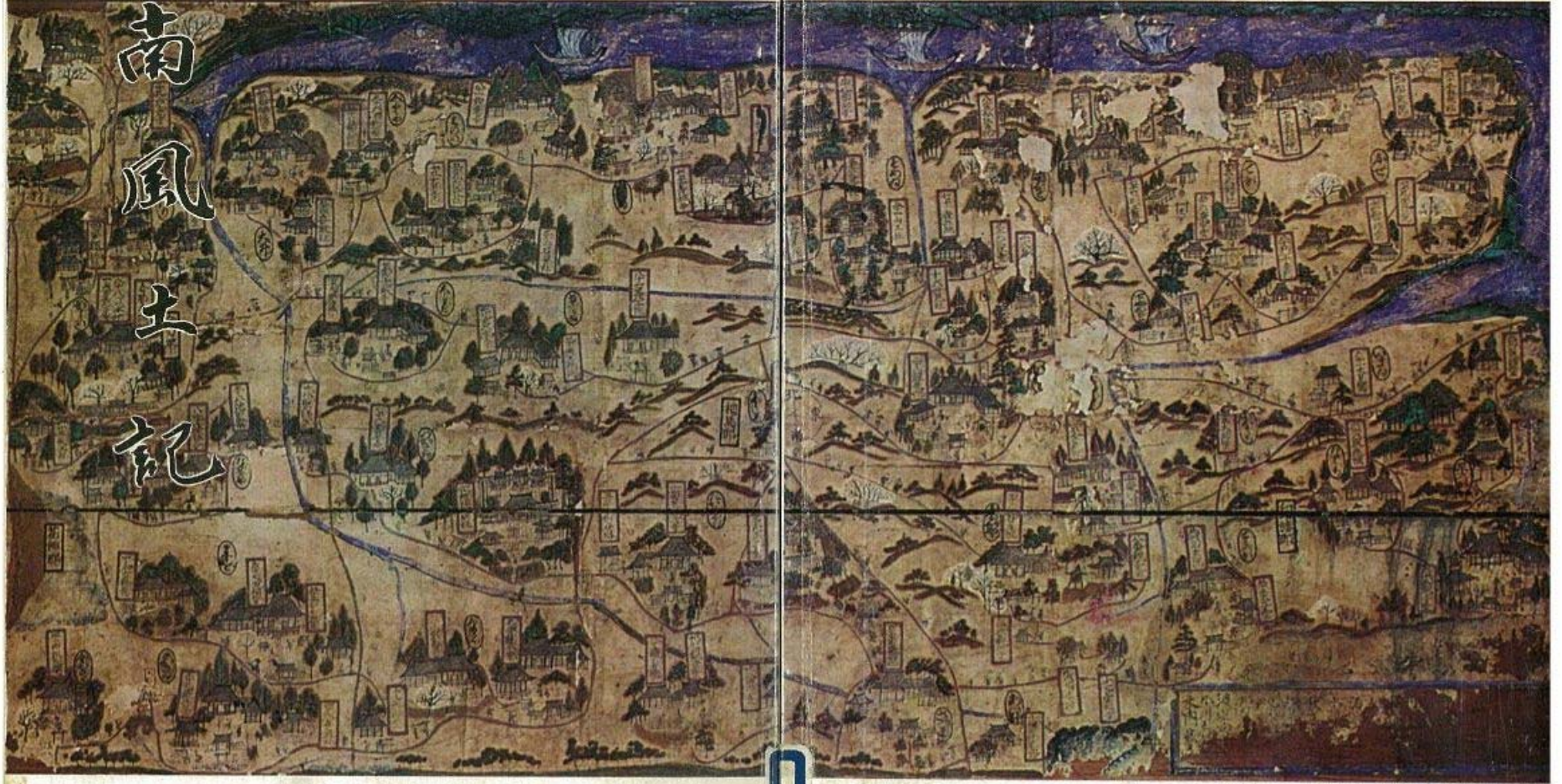


沼

南風土記



(六) 女子教員の殉難

沼の渡船の歴史の中で、もっとも悲劇的なものに、昭和十九年十一月二十二日の女子教員の殉難がありま

千葉

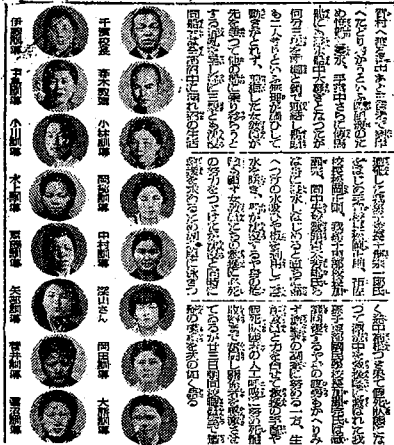
視察會の女教員一行

傳馬船が顛覆遭難

あゝ、嵐の手賀沼 十八の生靈を呑む

刻一刻の浸水

遭難の経緯 加瀬校長談

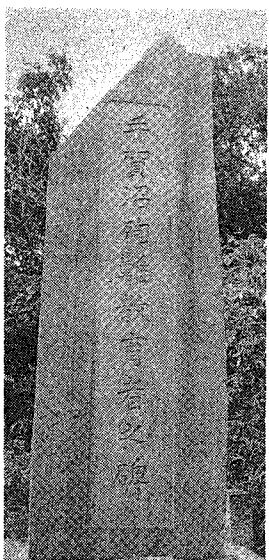


女子教員の殉難を報じる当時の新聞記事

船にも浸水、船中大騒ぎとなったが、何分三隻を麻縄と鎖で連結してあった為、舟の自由が出来ず…中略…。沼に馴れた千浜校長、必死の働きに加え、付近の農民が舟を漕ぎつけて救助に尽したが、一八名の遭難者を出した。」

手賀沼殉難教育者の碑石が、事故現場を見下ろす我孫子市中里の台地に建てられています。碑文の裏面には、「教育は国家発展の源泉にして、智徳を啓発成就するを以てその大本となす。(後略)」と刻まれているのが印象的です。

沼南町に関係のある先生は、小林富み先生・岡田伸



我孫子市中里にある殉難碑

す。大太平洋戦争の敗色が濃くなってくると、男子教員の多くは、戦場へ召集されて行きました。こうした状況の中で、女子教員による学校経営の円滑化を目的として計画されたのが、東葛飾郡東部教育会主催による女子教員の研究会でした。この会場として、湖北村国民学校・手賀村国民学校があてられました。

午前中、湖北での研修を終え、午後の会場である対岸の手賀地区への移動中に、この悲劇が瞬時に起こりました。当時の新聞には、次のような見出しで大きく報道されました。「視察會の女教員一行、伝馬船が転覆遭難。ああ魔の手賀沼、十八の生靈を呑む。」また、新聞の記事は次のように伝えています。

「午後、手賀国民学校の日程に向う教員及び同伴者合計四四名の一行、手賀沼中里渡船場から一般渡船客六名と共に、伝馬船二隻と笹葉舟一隻の連結船で、二名の船頭に操られ対岸の手賀村へ渡る途中、あと三〇〇メートルで対岸へたどり着こうという際、風波のため、笹葉舟に浸水、この処理中さらに伝馬

子先生・矢部喜代先生(風早)・大熊節子先生(手賀旧姓長谷川)の各位でした。小林先生は、大井分教場の女校長先生とまで皆に慕われていました。遠くから転動された方の下宿の世話や、結婚問題で悩んでいる方々の相談役になるなど、小柄な体を駆使して精力的に活動された方でした。また岡田先生は、松戸高等女学校を卒業後、手賀小にて教鞭をとること一年余、まだ二〇才の若さでした。あの厳格な父親(元本町教育長、故岡田堯純氏)、優しい母親に育てられ、その成果を見ずに他界されてしまったのです。

手賀沼では、この殉難事件を含めて、明治以降だけでも二〇〇人以上が水難の犠牲になっています。手賀沼漁業協同組合では、これらの殉難者を供養する目的で、聖観世音菩薩像を建立しました。片山地先のフィッシングセンター内に建てられてあり、高さ三メートルの青銅製で、水子を抱きハスの花を型どった高さ二メートルの八弁型の台座の上から、慈眼をそそいでいます。